

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

Challenge, Change, Smile !

- (自らの力を高め、視野を広げるためのチャレンジ、自分自身の可能性を高め、自己変革をめざすためのチェンジ、そして笑顔が絶えないスマイル)を合言葉に生徒が来たいと思う学校、来て良かったと思える学校をめざす。・・・そのために
- 1 “生徒とともに学ぶ“をテーマに、「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を探究し、学力の向上に取り組む。
 - 2 生徒が社会の一員としての自覚と規範意識を持ち、責任ある行動をとることができるよう生徒指導を充実させる。
 - 3 生徒が学習活動・学校行事、部活動等に積極的に参加するとともに、主体的に進路を選択し将来にわたり豊かな自己実現を図れるよう支援する。
 - 4 生徒が自らを律し他者を尊重し、思いやる心を持ち、人権や生命を尊重する精神を育む教育に取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化 → 主体的に学ぶ力の育成と授業改善

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、社会の中で生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を行うための授業改善と教員の資質向上に取り組む。
- ア 授業力向上PTを中心に、授業の質の向上に加え、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし「ICTの効果的な活用」を含めた学習形態の工夫について、さらに発展させる。
- イ 1人1台端末を効果的に活用すること、日常から授業の振り返りや学びの定着の確認を行い、計画的かつ組織的にこれまでの教育実践にICTを取り入れ学びの深化を図る。
- ウ 観点別学習状況の評価・点検、探究的な学びの実践、教科横断的な学びの推進をすすめる。また、指導内容や方法、評価の見直しを図りPDCAサイクルによる授業改善に取り組む。
- *** 学校教育自己診断（生徒）「授業は分かりやすい」(R3:68%・R4:73%・R5:77%)を3年後には85%にする。
- (2) 英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。
- ア 英語検定（進路部主導）を利用し、W-UP（朝学習）（教務部主導）を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。
- イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組みを推進する。
- ウ 思考力・判断力・表現力・探究力・創造力の育成を重視した授業実践に取り組む
- エ W-UP（朝学習）を活用し、特に英語力の向上をめざす。また、英語アプリやその他の教材を活用し資格試験合格もめざす
- *** 検定の目標級以上合格者前年度比10名増、3年後には目標級以上に50名以上の合格をめざす。
- 英検準2級以上の合格者の増加（R3:19名→R4:24名→R5:20名）
- *** 学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(R3:73%・R4:77%・R5:83%)を、3年後には90%にする。
- *** 学校教育自己診断（教職員）「教科会等において、指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」(R3:48%・R4:55%・R5:60%)を、3年後には80%にする。

2 豊かな心と健やかな体の育成

- (1) 人権・多様性を尊重する教育の推進
- ア いじめへの取組み・情報モラルの育成
- 「港高校いじめ防止基本方針」に基づき設置する校内組織を中心に、いじめ等の未然防止・早期発見・早期解決に組織的に取り組む。
- イ 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」、「豊かでたくましい人間性」を育む
- 人権3法、府人権関係3条例を踏まえ、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。
- (2) 健康教育・安全教育の充実
- ア 生徒の健康管理と防災・防犯マニュアルに基づき、避難訓練計画の見直しや一層の啓発活動をすすめる。
- イ 「薬物乱用防止教育」や「情報リテラシーの育成」をすすめる。
- 大麻等の薬物乱用防止教育や情報モラルの育成に努め、正しい知識の普及、啓発を図る。特に情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。さらに、生徒が加害者にも被害者にもならないように取組みを行う。
- (3) 生徒の状況把握と教育相談体制の充実
- ア 不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実
- 教育相談や支援教育体制を充実させ、保護者や関係機関との連携を強化し、貧困・虐待・ヤングケアラー等の情報共有や実態把握に努め、個に応じた適切で必要な支援～指導を行う。
- イ 生徒一人ひとりの心身の状況把握をめざし、事象や課題の早期発見、早期対応に努め、保護者や専門家、関係機関と連携し教職員全体で支援する。
- 登校できない生徒への対応としてICTを活用するなど学習を支援するとともに学習状況把握を行う。
- *** 学校教育自己診断（保護者）「心身の悩みについて教育相談できるシステムが学校にあることを知っている。」・「学校はいじめ（疑いを含む）について子供が困っていることがあれば、真剣に対応してくれる」、生徒「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」
- (R3:51%,47%,65%・R4:50%,51%,62%・R5:45%,41%,72%)を3年間で60%,60%,75%以上にする。

3 将来をみすえた自立性の育成 → 自己を確立し未来を切り開く力の支援 → 夢や目標を持った生徒の育成

- (1) 進路指導の充実を図る。R4学校経営推進費（「本とのちから」～みなと図書Canにできること～）を活用、英語検定合格指導や英語多読本活用等。
- ア チャレンジ講習（毎週7限）を有効活用し進学希望者等に対する指導を進路部・教科が主導する。進学講習体制を充実させ、生徒の進路実現に取り組む。
- イ 就職希望者に対しては、面接指導等を強化し希望先への内定率100%をめざす。
- ウ 自主性・自立性を育成するキャリア教育を推進し、社会人・職業人としての自立を通じた自己実現をめざし、第1希望進路達成率を向上する。
- エ 図書活動や図書館活用を活性化させることで、学力レベルの向上をめざす。
- *** 公募推薦等受験、一般受験での合格率（のべ）を高める（R3:30%,23%・R4:41%,35%・R5:33%,30%）⇒3年後には45%,40%をめざす。
- 外部学力診断テストにおける国数英3教科の3年生時のC3以上の人数割合を3年後には70%をめざす。
- (2) 自主・自律の精神を養い、充実した高校生活の実現をめざし、「人間力」を育成する。
- ア すべての教育活動において、自立性を育むことを念頭に活動をする。
- イ 規範意識の醸成、人権感覚を養う。また、基本的生活習慣の育成、欠席者数、遅刻者数の減少に取り組む。
- *** 学校教育自己診断（保護者「生徒指導の方針に共感できる」生徒「先生は協力して生徒指導にあたっている」）(R3:72%,65%・R4:76%,68%・R5:70%,83%)を3年間で共に80%・90%にする。欠席者数・遅刻者数（R3:3331,2473・R4:4699,2684・R5:2857,5991）を3年間でR5比70%に減少させる。

(3)「元気な学校づくり」部活動・特別活動や生徒会活動・自己実現活動へ生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導していく。 ア 様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動への参加・加入率を高める。合理的でかつ効率的・効果的な取組みをおこなう。 イ 部活動や学校行事で「人を育てる」。生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感できるものにする。 ウ 校内美化に努め、常に快適で過ごしやすい環境づくりを自主的・主体的に進める。 エ 地域・大学・企業との連携の充実をさらに高め、生徒自身の将来像を考えさせるよう、主体性・自立性の意識向上につなげる。また、その中で、「グローバル社会に対応できる人材の育成」、SDGs（持続可能な開発目標）の視点、国際交流等により文化や習慣の違いを尊重する精神も育みながら、問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力の育成、実践的な英語運用能力の育成を図る。 *** 部活動加入率（R3：42％・R4：43％・R5：49％）を3年間で60%にする。 *** 学校教育自己診断（生徒）「港高校に行くのが楽しい」「生徒であることに誇りを持っている」（R3：75%, 65％・R4：79%, 60％・R5：75%, 65％）を3年間で80％・70%に。 *** 学校教育自己診断（保護者）「学校は将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている」（R3：80％・R4：79％・R5：74％）を3年間で85%にする。
4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり → 学校の組織力向上と開かれた学校づくり → 信頼される魅力ある学校づくり (1) 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。「運営委員会」が企画・検討の中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。 ア 学年が主導ではなく分掌が主導で校務にあたり、学年は学年団として機能し、担任と副担任が協力して、学年・学級指導にあたる。 *** 学校教育自己診断（教員）「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」（R3：42％・R4：38％・R5：53％）を3年間で60%とする。 (2)「頼りにされる校務力」の育成（新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る）、「学び続ける教職員」（ICT活用指導力の向上に取り組む教職員）の育成経験年数の少ない教職員の資質・能力の向上、ミドルリーダーの育成を図る校内研修を充実。中堅・ベテラン教員が若手教員の育成を担当することで自らの力量を高める。(OJT)・・・組織的継続的な人材育成、ミドルリーダー・次代の管理職を系統的に育成、ハラスメントに対する認識の深化・相談体制の構築 (3) 広報活動と地域連携の充実 ア ホームページ等の適時更新などできるだけ効果的な情報発信に努める。学校説明会や中学校での説明会などを工夫し、広報活動を活発にする。 イ 広報活動を様々な展開し、国際交流や図書活動などを通して地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。 *** 学校教育自己診断（保護者）「港高校のHP等をよく閲覧する」（R3：46％・R4：39％・R5：37％）を3年間で55%とする。 (4) 教職員の負担軽減（業務分担の見直しや適正化、在校等時間の縮減 教職員の健康管理と意識改革） ア 働き方改革をふくめ「全校一斉定時退庁日」の設定、様々なデジタルコンテンツの作成・活用、グループウェア等を活用した「校務運営の効率化」の促進や一人ひとりの意識改革を推進する。 *** 時間外労働時間において、3年後に15%以上の削減をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年2月実施分〕	学校運営協議会からの意見
1 確かな学力の定着と学びの深化 (1) 学び（授業）及び学習評価 ア・ウ ・(教職員)「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に活かしている」[79%] ⇒64% (△) ・(教職員)「教員間で授業方法について検討する機会を積極的に持っている」[77%] ⇒79% (○) ・(教職員)「教科会において指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」[60%] ⇒57% (△) イ ・(教職員)「効率よく授業を進めるためにICTを活用している」[72%] ⇒89% (◎) ・1人1台端末の導入のための授業づくり研修の実施。 [2回] ⇒3回 (○) ＊ICT活用についてはかなり浸透してきている。次の段階として、深い学びにつながる授業展開でのICT活用にさらにシフトチェンジが必要。 次年度以降も授業改善・研究を進めていく必要がある。 ＊生徒の授業アンケートの評価はおおむね良いといえる。生徒のさらなる学びにつながる授業展開の工夫をすすめていく。 (2)英語力、プレゼンテーション能力の強化 ア ・合格者数 英検2級と準2級の合格者数を30名とする。[準2級以上31名合格] (○) イ ・(生徒)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」[83%] ⇒87% (○) ウ ・(生徒)「授業は分かりやすい」[77%] ⇒81% (○) ・(保護者)「子どもは、授業が分かりやすいと感じている」[51%] ⇒51% (△) ＊もっと指導の強化が必要。コツコツ積み上げること、思考・判断・表現の力が高まるような授業展開にさらに力を入れていく ＊来年度の課題のひとつ。各教科での研究を他教科のヒントにできるように取り組む必要がある 2 豊かな心と健やかな体の育成 (1) 人権尊重 ア ・いじめ防止対策委員会実施〔6回〕⇒6回 (○) 「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。」[77%] ⇒93% (◎) ＊迅速に、丁寧に対応できていると評価できる イ (生徒)「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」[89%] ⇒86% (△) ・教職員人権研修の実施〔1回〕⇒3回 (○) ＊生徒については昨年度とほぼ同等の学習機会はあったが、意識付けがも	第1回 報告・協議内容等（意見の概要） 報告 (1) 各分掌・学年の進捗状況について（学年、分掌マネジメント表より） ①教務部 ・情報システム室とは連携が取れて、うまくICT活用が進んでいる。 ・今年度で、全学年が観点別評価になります。 ・今後も建設的な学校運営を進めてまいりたいと思います。 ②生徒部 生徒指導 ・重点課題は昨年度と大きくは変えずに、自主的な行動を促していきたい。 ・身だしなみ指導は引き続き行い、遅刻・欠席数が減っていくようにしたい。 ・いろんな場面において、教員側から積極的に声をかけていきます。 ③生徒部 自治会 ・今年の自治会選挙、会長が決選投票となり、緊張感があり選挙らしい姿になった。 ・1年生の部活動加入率は46%であるため、声掛けをして目標の80%に上がるよう声掛けをしていきます。 ④生徒部 保健 ・6月に眼科検診。欠席者対応も行います。 ・4月に防災避難訓練を行いました。12月には、教科担当が避難誘導を行う形で実施する予定です。 ⑤進路指導部 ・生徒の進路実現を全力でサポートしていきたい。 ・学習支援クラウドサービスの導入など、校長先生と打ち合わせを行いながら進めていきます。 ⑥総務部 ・書籍163冊を購入、読書活動の活性化に向けてSNS発信を行っています。 ・奨学金については必要な家庭に利用を促しており、大阪府育英会は昨年の2倍となっています。 ⑦3学年 ・就職希望の生徒については、全員行き先が決まるように取り組んでいます。 ・社会に出てから通用する人間として教育していきたい。 ⑧2学年 ・各種検定の合格率を上げて自信をつけさせていきたい。 ・3年生に向けた準備を、いろんな観点で進めていきたい。 ⑨1学年 ・英検の合格率75%をめざし、チャレンジ講習の充実を図りたい。 ・生徒が安心して登校できる環境を作り、皆が学校に行くことを楽しいと思わせたい。 ⑩人権教育推進委員会 ・情報セキュリティの見直しから、人間関係のリテラシーを深めていきたい。 ・教職員は昨年度の延長線上で、当事者の声を聴けるような研修を考えている。 ⑪教育相談委員会 ・生徒たちの現状を、学年としてあるいは学校として受け止めていくようにしたい。 ・毎週開催する教育相談委員会を充実させる。 ・相談に来ていた生徒が、「もう大丈夫」と言ってもらえるような環境を整える。

府立港高等学校

う少し必要かもしれない （２）健康・安全 ア、イ （教職員）「学校生活で、生徒の体調が悪くなった場合、適切に処置・対応する体制がとれている。」[84%] ⇒ 82%（△） （生徒）「健康や安全、防災等について考える機会がある。」[88%] ⇒84%（△） ＊短時間勤務の教員が多くいる中、今の体制でよく踏ん張れていると考える。 （３）教育相談体制 ア、イ ・教育相談委員会開催回数[20 回] ⇒24 回（○） ・修学支援会議（ケース会議＋個別検討会議）開催回数[10 回] ⇒16 回(◎) ・SSW 活用[12 回] ⇒12 回（○） ・SC 活用[17 回] ⇒ 20 回（○） （教職員）「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外とも相談することができる。」 [91%] ⇒ 84%（△） （生徒）「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」[72%] ⇒78%（○） （保護者）「子どもの心身の悩みについて教育相談できるシステムが学校にあることを知っている（または相談したことがある）[45%]⇒30%（△） ・アレルギー対策委員会の定期的実施 [4 回] ⇒4 回（○） ・防犯訓練の実施 [0 回] ⇒1 回（○） ・エビペン講習会の実施 [1 回] ⇒1 回（○） ・オンライン配信授業率 [100%] ⇒100%（○） ＊非常にきめ細やかに対応してきた自負がある。学校でのこうした活動を生徒への配布物等、デジタルの連絡網でさらに保護者の方にデータ配信の必要性を感じた。 ３ 将来を見据えた自立性の育成 （１） 進路指導の充実 ア チャレンジ講習等の実施頻度（授業期間） １－２年生…英数国等合計年間各[12 回]⇒各 15 回＋23 回、計[47 回]（○） ３年生…英数国理等合計を年間 [50 回] ⇒70 回以上（○） （長期休業中） １－２年生…英数国理等合計 [5 回]⇒23 回（○） ３年生…英数国理等合計[25 回]⇒32 回（○） ・４年制大学への進学者[47%] ⇒52%（○） ・４年制大学・短大への進学者[53%] ⇒58%（○） ・公募推薦・A0 等大学・短大受験合格率 [37%]⇒ [40%]（○）、一般受験合格率 [30%]⇒ [16%]（△） イ：就職希望者 8 名 ・１次就職試験決定率[83%]⇒88%（△） ・学校斡旋就職決定率[100%]⇒100%（○） ・インターンシップ人数⇒一人当たり 5 回ずつ ・応募前職場見学参加人数[全員参加]⇒全員参加（○） ・就職講座等指導実施回数[20 回]⇒20 回（○） ウ ・医療系専門学校・短大・４大の進路希望実現率 95%以上 ・進路未定等[4 %]⇒4 %（○） ・（教職員）「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている [72%] ⇒84%（◎） エ ・外部学力診断テストにおける国数英３教科の３年生時の C3 以上の人数割合を３年後には 70%をめざす。[54%]⇒49%（△） ＊多様な進路に対して、できる限りのサポートを行い、昨年度比で目標を上回ることができた。学力的な基礎力・地力強化が課題 （２） 人間力の育成 ア （保護者）「生徒指導の方針には共感できる」[70%]⇒52%（△） （生徒）「先生は協力して生徒指導に当たっている」 [83%]⇒89%（○） ・薬物乱用防止等講習や SNS 等研修の実施状況 [各学年 2 ～ 3 回実施] ⇒同等（○） ＊保護者の方に対する説明の不足、納得を得る生徒対応・指導が必要（論ず指導の徹底）。次年度の研修課題として捉えている イ 遅刻者数[2857 件] ⇒3716 件（△） 欠席者数[5991 件] ⇒6232 件（△） ＊最近の生徒の状況から考えると、指標の再設定が必要となっている （３） 元気な学校づくり ア ・部活動加入率[48.8%] ⇒47%（△） ・クラブ体験行事の回数[6 日] ⇒6 日（○） ・部活動連絡会やリーダー講習の実施数[10 回]⇒ 10 回（○） ・港カップ杯イベント、スポーツ講演や合同練習、講習会の実施数[14 回]	【質疑応答】 ○印：学校運営協議委員会のご発言、ご意見 ●印：学校教員の発言、意見 ○LGBTQ に関連して、男子生徒がスカートを履きたいと言ってきた場合の対応はどのようなものになるでしょうか。 ●生徒としっかり話をすることが基本。現状では男子生徒がスカートを履くことは、その生徒に対してリスクが高すぎるように思う。 ●教員が配慮することはもちろんだが、自分と違う生徒がいても普通のことだと伝えることが大切。生徒自身が「それはその通りだね」と自然と受け止めていける状態を作りたい。 （２）スクールポリシーについて（資料に基づいて説明） 校長 グラデュエーションポリシーについては、中学校・中学生から見てだいぶわかりやすくなったと思っています。 （３）R5 学校評価・R6 学校経営計画について 校長 先生方が頑張って取り組んでくれていることで、全体的に数字が上がっている。唯一悪化しているのが、残業時間。部活動の活性化という課題もあり難しい。顧問の先生方と十分連携を取りながら、改善に向けた道を見つけていきたい。これを踏まえて R6 の学校経営計画ですが、授業をしっかりと改善し生徒たちの興味・関心を高めていけるように、授業力の向上を図りたい。また外部教材を利用して、生徒たちが主体的に学ぶように移行させ、結果的に教員の仕事の効率化に結び付け、時間外の残業時間の減少をめざしたい。 ○英語検定に力を入れておられるが、２級や準２級に全く手の届かないような生徒はいらっしゃいませんか？そういった生徒に対してどのような対応を取られていますか？ ●学力に差は確かにあります。そういう場合には、まずは３級を目標として学習させていきます。やはり成功体験ややったら身につく、そういうことを体感させることが重要です。もちろん希望者には、放課後や長期休業中の講習を実施し、目標達成の後押しをしています。 ●今は、目先に自分たちのためになるようなことを伝えている。その先に継続してやり続けて良かったなと思ってもらえればよいと考えます。英語サプリの導入も、最終的には生徒たちが主体的な学びを確立していくための一つの手段。１年生ならば大学進学は先の話になりますが、準２級や２級を持っていれば、大学に行きやすくなるならそうしようかなって、とっかかりになればよいと思います。 第２回 報告・協議内容等（意見の概要） 報告 （１）各分掌・学年の進捗状況について（学年、分掌マネジメント表より） ①教務部 ・不登校生徒などに対する遠隔授業実施に向けて準備を進めている ・校務システムの更新や入学者選抜のオンライン出願・デジタル採点など、新規業務が多く対応することに苦慮している。 ②生徒部 生徒指導 ・遅刻欠席数の目標達成はかなり厳しい状況、何年後かにはこの数字をクリアしたい。 ・毎朝の登校（挨拶）指導の結果、自ら挨拶をする生徒が増加している。 ③生徒部 自治会 ・部活動定着率を安定させるべく、引き続き重点課題に取り組む。 ・地域連携にも積極的に取り組んでいく（ランニングパトロール、地域清掃など）。 ④生徒部 保健 ・校内美化の徹底を図りたい。その為に保健委員や美化委員の活用を図る。 ・防災避難訓練の改善について引き続き検討していきたい。 ⑤進路指導部 ・教員向けの指導力向上研修を４回実施して、生徒指導をより良きものになっている。 ・現時点では、進学希望については例年並みの希望者数である。 ⑥総務部 ・図書室の広報活動や啓発活動を続けて実施し、読書習慣の向上を図っている。 ・PTA との連携や広報活動も順調に進めることができている。 ⑦３学年 ・就職希望の生徒 6 名のうち 4 名が内定を獲得している。 ・規範意識の醸成について、手ごたえを感じている。 ⑧２学年 ・学年団会議の定期開催によりより緊密な生徒の情報共有ができている。 ・規律面の指導強化について、引き続き取り組んでいる。 ⑨１学年 ・W-UP の指導について、英語科とも連携し今後のモデルケースづくりを進めている。 ・従来の指導にとらわれることなく、様々なことに挑戦していきたい。 ⑩人権教育推進委員会 ・法律の変化により、従来の指導にも影響が出ていることに注視している。 ・部落問題については、当事者の方のお話を聞くことができ多くの気づきを学んだ。 ⑪教育相談委員会 ・生徒相談室を開室しているが、来室者がいない状況である。 ・保健室への来室者が増加しており、身体や心ともにしんどさを抱えた生徒が増加。 （２）令和 7 年度使用教科書の採択について ＊教育庁の採択通知を紹介し、確認いただいた（特に意見は出なかった）。 協議 進捗状況の報告について（校長より） 【感想（質疑応答の時間が取れなかった）】 ○印：学校運営協議委員会のご発言 ○今後の課題で説明された内容は、どの項目も大切で学校の向かっている方向に間違いはない。教職員の理解と協力を得て、なお一層生徒のために努力してください。 ○高校で育成する「学力」の変化にしっかりと先生方が対応する必要がある。その為にも
--	---

府立港高等学校

⇒ 14 回（○） ・学校 HP の各部活動の更新を月 1 回は行う。また、SNS についてもその活動を広げていく（△） SNS は各部で行っているが HP 更新回数が少ない（△） ＊全体を通して情報発信力が極めて低い。取組みに対する理解を得るためにも、もっと SNS を含めた定期的な更新が必要 イ ・（生徒）「学校に行くのが楽しい」[75%] ⇒82%（○） ・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」[88%] ⇒88%（△） ウ ・（保護者）「清掃活動はきちんと行われていると感じる」[85%] ⇒60%（△） ・（生徒）「清掃活動はきちんと行われている」[84%] ⇒84%（△） ・教員「生徒とともに実施し、担当の区域はきれいに保てている清掃活動はきちんと行われている」[67%] ⇒64%（△） 清掃への意識向上が教員・生徒にもっと必要 エ ・校内交流会回数[1 回]⇒1 回（○） ・交流会等参加生徒による報告会[0 回]⇒0 回（△） ・国際理解教育研修回数[3 回]⇒3 回（○） 韓国の高校生行け入れや人権研修実施（○） 4 学校組織づくり （1） 組織力強化 ・学校教育自己診断（教員） 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」[49%] ⇒60%（○） 「学校の教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」[79%] ⇒64%（△） ア 学年団会議の回数 [12 回] ⇒12 回 ・（教員）「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」[53%] ⇒43%（△） ・「学校の教育活動について、教職員でよく話し合っている」[81%] ⇒91%（◎） （2） 校務力の育成 ・メンターチーム研修実施回数[5 回] ⇒5 回 ・教職員研修の実施回数[4 回] ⇒6 回（○） ・初任者校内研修[20 回] ⇒20 回（○） ・先進校視察実施回数 [3 校]⇒2 校（△） ・教職員研修（人権研修を含む）を 5 回（○） （3） 広報活動 ア ・保護者「HP等を閲覧することがある」[37%] ⇒22%（△） ・中学校への出前授業[5 回]⇒5 回（○） ・（教職員）「広報活動に取り組み、必要な情報は生徒・保護者・地域に向かって発信している」 [73%] ⇒78%（○） ・学校教育自己診断アンケートの回収率を高める（保護者） [68%] ⇒70%（○） イ 実施企画数 ・毎朝の挨拶運動および清掃活動 ・地域清掃活動[5 回]⇒ほぼ毎日（○） ・地域連携活動[0 回]⇒3 回（○） （4） 働き方改革 ア R6：80 時間以上 のべ 37 人（△） 100 時間以上 のべ 14 人（△） 総残業時間 16110 時間 月平均 1790 時間 1 人あたり月平均 37.3 時間 ・労働安全衛生委員会 実施回数[12 回] ⇒12 回	日々の研修や情報交換がポイントになる。働き方改革と相反することの無いようにしてほしい。 ○普通科高校としての特色と強みを出すことについては、難しい側面もありますが、これからの生き残りを考えると、やらざるを得ない。定員割れだけは避けていただきたい。 ○選抜制度の変更については、必要なものであると認識しているが、現場の先生方が疲弊するような環境を生み出さないように、丁寧な説明と移行が必要だと思います。必要があれば校長先生から教育庁にも物申すことがあっても良いのではないのでしょうか。 ○生徒ファーストの学校であり続けてほしい。必要な改善・改革は当然だが、時に生徒の姿が置き去りのまま議論が進むことがあるように感じている。これからも今までと同様、生徒の意見もよく聞いていただき学校運営を進めてもらいたい。
第3回 報告・協議内容等（意見の概要）	報告
	（1）学校教育自己診断アンケート結果について
	＊各項目の肯定的な意見の数字、記述回答を確認し、次のように次年度に向けた本校の課題として3つにまとめてみました。
	1 生徒規律の継続性と規律の徹底
	＊生徒たちが自発的に規律を守っていけるように、教員の指導のありようの改善を図るとともに、教員の自己満足に終わっていないか自己点検が必要である
	2 保護者との連携を効率的に進めていく
	＊保護者との意思疎通がしっかりと図れるよう、連絡の取り方等見直す必要がある。
	3 進路指導と生徒の自主性伸長に向けた取組みの推進
	＊生徒が学校の進路指導をどこまで活かしているのか確認が必要であり、保護者にも理解を深めていただけるようにする。また授業改善の取組みを進める。
	（2）各分掌・学年の進捗状況について（学年、分掌マネジメント表より）
	① 教務部
	・遠隔授業の活用について、港高校としての対応の方針を見定める必要がある。
	② 生徒部 生徒指導
	・遅刻欠席数の目標について、次年度は数字でなく何%減という感じに変えたい。
	③ 生徒部 自治会
	・部活動の加入率が現時点で 40%とかなり低い。部活動で活躍する生徒が元気になる取組みを進めていきたい。
	④ 生徒部 保健
	・避難訓練について、生徒はもちろん教職員も全員参加ができるように事前の声掛けが必要。またいろんな状況を考え様々な訓練方法に対応することも大切。
	⑤ 教育相談委員会
	・他学年との情報共有を進める中で、学校として対応していく下地ができた。
	⑥ 進路指導部
	・全体の仕事の精選と内容の見直しを図り、より生徒希望をかなえられる状況を作る。
	⑦ 総務部
	・広報活動の強化により、図書館の利用者が増加している。この流れを次年度にもつなげていきたい。
	⑧ 3 学年
	・進学希望者の 90%超が進学先を確保し、就職希望者は内定率 100%。及第点であると思う。
	⑨ 2 学年
	・連絡すれば欠席・遅刻をしても良いという生徒が一定数いる。その点の意識を改善して学校に自己実現をするために積極的に通う姿を求めている。
	⑩ 1 学年
	・遅刻、欠席数の増加している。休んだり遅刻したりするともったいない、と生徒が思う学校づくりを作りたい。
	⑪ 人権教育推進委員会
	・個人情報の管理意識が希薄で、その点を改善するべく、来年度に向けて講師の選定を進めていきたい。
	協議
	令和6年度学校評価について
	令和7年度学校経営計画について（校長より）
	【感想（質疑応答の時間が取れなかった）】
	○印：学校運営協議委員のご発言
	○年度末が近づき、入学者選抜を控えたこの時期に評価のシステムがあることに疑問を感じる。
	○生徒対応の時間が十分とることができない現状が大きな問題。
	○高校教育の無償化が現場に与えている影響は大きい。また DX 化における人材保証がないことも、現場では仕事量が増える一方で、働き方改革と相反する状況を生み出している。
	○回答率の差が大きく、特に生徒の回答数が少ないことが問題である。生徒の多様化を踏まえて学校の対応も変えていく必要があるため、回答率については一定数を確保できるようにするべきではないでしょうか。
	○保健室の運営が苦しい（教員数の問題）中で先生方はよく頑張っていると思います。
	○生徒の自主性が最重要だと考えるが、他の項目と並列で並んで示されると、分かりづらく学校の目指している方向がぼやけてくるように思う。
	○学校教育自己診断アンケートの総括が、学校経営計画のどこに活かされているのかわかりにくい。せっかくご意見をいただいたのだから、それが明確に活かされていることがわかるようになっていると、今後の回答率の上昇にもつながるように思います。
	○「めざす学校像」「中期的目標」など一つ一つの項目の説明はわかるのだが、一目で見て港高校はこんな学校と、わかるようになっているとありがたいです。
	○情報発信は活発に行う必要がある。また、学年ごとに内容を精選して発信（わかりやすく伝えていくことを追求）することが肝要。一方で情報が多すぎると重要な点を見落とすことがあることに注意が必要。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	（１）新学習指導要領を踏まえ、社会の中で生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を行うための授業改善と教員の資質向上に取り組む。 ア 授業力向上 PT を中心に、授業の質の向上に加え、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし「ICT の効果的な活用」を含めた学習形態の工夫について、さらに発展させる。 イ １人１台端末を効果的に活用すること、日常から授業の振り返りや学びの定着の確認を行い、計画的かつ組織的にこれまでの教育実践に ICT を取り入れ学びの深化を図る。 ウ 観点別学習状況の評価・点検、探究的な学びの実践、教科横断的な学びの推進をすすめる。また、指導内容や方法、評価の見直しを図り PDCA サイクルによる授業改善に取り組む。	（１） ア ・教員研修の実施、他校への授業見学や研修参加主体的・協働的な学びを取り入れた授業改善。 ・全教員による相互授業見学月間の実施。 ・授業改善のための校内研修の実施。 ・授業アンケート後の振り返りを行い、それを活用した授業改善の取組みを推進。 ・AL や ICT の効果的な活用をした授業を行う教員の割合を増加。 イ ・ICT 活用研修の継続実施。 ・日々の授業の振り返りや理解度の確認テストを活用し、個別最適な学びにつなげる。 ウ ・各教科で評価の仕組みを検証し観点別評価を再確立する。 ・各教科で指導と評価の年間計画。指導と評価の一体化(シラバス)について検証する。 ・授業アンケートの結果や日常の授業での生徒の振り返りシート内容から、適切な授業改善に取り組む。	（１） ア・ウ ・(教職員)「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に活かしている」 [79%] ⇒82% ・(教職員)「教員間で授業方法について検討する機会を積極的に持っている」 [77%] ⇒80% ・(教職員)「教科会において指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」 [60%] ⇒64% イ ・(教職員)「効率よく授業を進めるために ICT を活用している」 [72%] ⇒76% ・１人１台端末の導入のための授業づくり研修の実施。 [2 回] ⇒ 3 回	（１） ア・ウ ・(教職員)「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に活かしている」 [79%] ⇒64% (△) ・(教職員)「教員間で授業方法について検討する機会を積極的に持っている」 [77%] ⇒79% (○) ・(教職員)「教科会において指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」 [60%] ⇒57% (△) <u>全般において、今一度、経営計画に基づく評価と取組みの見直しが必要。</u> イ ・(教職員)「効率よく授業を進めるために ICT を活用している」 [72%] ⇒ 89% (◎) ・１人１台端末の導入のための授業づくり研修の実施。 [2 回] ⇒ 3 回 (○)
	（２）英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。 ア 英語検定（進路部主導）を利用し、W-UP（朝学習）（教務部主導）を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。 イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組みを推進する。 ウ 思考力・判断力・表現力・探究力・創造力の育成を重視した授業実践に取り組む	（２）全員が英検の何れかの級を取得する。年次進行で、３年間のデザインを確立する。進路部主導、教科・学年が主体となって、R4 学校経営推進費で準備した英語多読速読教材を用いた授業展開、および教育産業教材の活用、英語学習ツール（BASE in OSAKA）を活用して、授業での活用、W-UP での効率的な学習、チャレンジ講習等の補習の充実につなげる。 ア ・朝学習(W-UP)や7 限講習を利用したチャレンジ講習や各検定に向けた学習形態の深化。 ・基礎的な学習内容の定着を深化させる。 イ ・ペアワークやグループワークなどを用いながら、個別最適な学びと主体的・対話的で深い学びにつながる授業展開をどの授業行う。パフォーマンス課題の内容の研究をさらにすすめる。 ・他校との授業研究交流。 ウ ・授業見学月間において「思考力・判断力・表現力・探究力・創造力の育成を重視」というテーマでの授業実践を行い、その観点からの意見交換を年２回行う。	（２） ア ・合格者数 英検２級と準２級の合格者数を 30 名とする。[準２級以上 20 名合格] イ ・(生徒)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」[83%] ⇒ 86% ・他校授業観察等実施 [4 校]⇒ 4 校 ウ ・(生徒)「授業は分かりやすい」[77%] ⇒80% ・(保護者)「子どもは、授業が分かりやすいと感じている」 [51%] ⇒ 60% ・上記同質問の生徒・保護者の差を 20 p 以内にする ・各教科での授業参観後の研究協議を年２回、教科会議で行い、職員会議で情報共有をする	（２） ア ・合格者数 英検２級と準２級の合格者数を 30 名とする。[準２級以上 31 名合格] (○) イ ・(生徒)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」[83%] ⇒ 87% (○) ・他校授業観察等実施 [4 校]⇒ 3 校 (△) ウ ・(生徒)「授業は分かりやすい」[77%] ⇒81% (○) ・(保護者)「子どもは、授業が分かりやすいと感じている」 [51%] ⇒ 51% (△) ・上記同質問の生徒・保護者の差は 30 p (△) ・各教科での授業参観、研究協議を行うが、職員会議等での報告までには至らず (△) <u>来年度の課題のひとつ。各教科での研究を他教科のヒントにできるように取り組む必要がある</u>

府立港高等学校

2 豊かな心と健やかな体の育成	（１）人権・多様性を尊重する教育の推進 ア いじめへの取組み・情報モラルの育成 「港高校いじめ防止基本方針」に基づき設置する校内組織を中心に、いじめ等の未然防止・早期発見・早期解決に組織的に取り組む。 イ 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」、「豊かでたくましい人間性」を育む 人権３法、府人権関係３条例を踏まえ、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。 （２）健康教育・安全教育の充実 ア 生徒の健康管理と防災・防犯マニュアルに基づき、避難訓練計画の見直しや一層の啓発活動をすすめる。 イ 「薬物乱用防止教育」や「情報リテラシーの育成」をすすめる。大麻等の薬物乱用防止教育や情報モラルの育成に努め、正しい知識の普及、啓発を図る。特に情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。さらに、生徒が加害者にも被害者にもならないように取組みを行う。 （３）生徒の状況把握と教育相談体制の充実 ア 不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実 教育相談や支援教育体制を充実させ、保護者や関係機関との連携を強化し、貧困・虐待・ヤングケアラー等の情報共有や実態把握に努め、個に応じた適切で必要な支援～指導を行う。 イ 生徒一人ひとりの心身の状況把握をめざし、事象や課題の早期発見、早期対応に努め、保護者や専門家、関係機関と連携し教職員全体で支援する。登校できない生徒への対応として ICT を活用するなど学習を支援するとともに学習状況把握を行う。	（１） ア ・いじめ防止対策委員会の定期的な実施とクラス間、学年間の情報交換、未然防止、早期発見、早期解決対応についての組織的な対応の確認および教職員研修の実施。 イ ・人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的推進。 ・３年間を見据えた人権教育マップ（シラバス）の構築。 （２） ア ・防災・防犯訓練の実施。 ・避難訓練の実施方法の見直しと実施後のマニュアルの再検討。 ・防犯訓練の実施と今後に向けた実用的訓練の検討。 ・学校における設備の充実や危機管理について見直す。 イ ・薬物乱用防止教育や情報リテラシー教育の３年計画の見直しと確認。 （３） ア ・教育相談体制や支援教育体制の充実、保護者や関係機関との連携を強化し、全教員が校内体制や対応方法について確認する。貧困、虐待、ヤングケアラー等の生徒の情報共有や実態把握に努め、個々に応じた適切かつ必要な支援・指導を行う。 ・SC・SSW や支援教育コーデや学校生活支援カードを有効に活用。SC・SSW の有効活用。 ・教育相談会議や生徒のケース会議の実施。その情報の校内の共有。支援方法や体制を確立。 ・貧困、虐待、ヤングケアラー等の情報共有や実態把握に努め、個々に応じた適切で必要な支援～指導を行う。 ・アレルギー対策委員会の定期的な実施により、生徒の基本的な情報を共有する。 イ ・様々な事情で登校できない生徒への対応としての ICT を活用した組織的な学習支援体制を継続させ、実施状況の把握コントロールに努める。 ・双方向授業の方法を全教員で確認すること、その実施の際の注意事項の確認。 ・連絡システムを活用した生徒の登校状況や健康把握の校内の組織的対応手順を構築する。それにより、保健室・学年・教頭の連携の強化をすすめる。	（１） ア ・いじめ防止対策委員会の実施 〔６回〕⇒６回 「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。」〔77％〕⇒８０％ イ （生徒）「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」 〔89％〕⇒91％ ・教職員人権研修の実施 〔１回〕⇒２回以上 （２）ア、イ （教職員）「学校生活で、生徒の体調が悪くなった場合、適切に処置・対応する体制がとれている。」〔84％〕⇒８8％ （生徒）「健康や安全、防災等について考える機会がある。」〔88％〕⇒90％ （３） ア、イ ・教育相談委員会開催回数 〔20回〕⇒20回 ・修学支援会議(ケース会議＋個別検討会議)開催回数 〔10回〕⇒10回 ・SSW 活用〔12回〕⇒12回 ・SC 活用〔17回〕⇒17回 （教職員）「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外とも相談することができる。」〔91％〕⇒93％ （生徒）「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」 〔72％〕⇒75％ （保護者）「子どもの心身の悩みについて教育相談できるシステムが学校にあることを知っている（または相談したことがある）」 〔45％〕⇒55％ ・アレルギー対策委員会の定期的実施〔４回〕⇒４回 ・防犯訓練の実施 〔０回〕⇒１回 ・エビペン講習会の実施 〔１回〕⇒１回 ・オンライン配信授業率 〔100％〕⇒100％	（１） ア ・いじめ防止対策委員会実施〔６回〕⇒６回（○） 「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。」 〔77％〕⇒93％（◎） <u>迅速に、丁寧に対応できていると評価できる</u> イ （生徒）「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」〔89％〕⇒86％（△） ・教職員人権研修の実施 〔１回〕⇒３回（○） <u>昨年度とほぼ同等の学習機会があったが意識付けがもう少し必要かもしれない</u> （２）ア、イ （教職員）「学校生活で、生徒の体調が悪くなった場合、適切に処置・対応する体制がとれている。」 〔84％〕⇒82％（△） （生徒）「健康や安全、防災等について考える機会がある。」〔88％〕⇒84％（△） <u>今の体制でよく踏ん張れていると考える</u> （３） ア、イ ・教育相談委員会開催回数〔20回〕⇒24回（○） ・修学支援会議(ケース会議＋個別検討会議)開催回数〔10回〕⇒16回（◎） ・SSW 活用〔12回〕⇒12回（○） ・SC 活用〔17回〕⇒20回（○） （教職員）「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外とも相談することができる。」 〔91％〕⇒84％（△） （生徒）「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」 〔72％〕⇒78％（○） （保護者）「子どもの心身の悩みについて教育相談できるシステムが学校にあることを知っている（または相談したことがある）」 〔45％〕⇒30％（△） 生徒への配布物等、連絡網でさらに保護者にデータ配信の必要 ・アレルギー対策委員会の定期的実施〔４回〕⇒４回（○） ・防犯訓練の実施 〔０回〕⇒１回（○） ・エビペン講習会の実施 〔１回〕⇒１回（○） ・オンライン配信授業率 〔100％〕⇒100％（○）

府立港高等学校

3 将来をみすえた自立性の育成	（１）進路指導の充実を図る。 ア チャレンジ講習（毎週７限）を有効活用し進学希望者等に対する指導を進路部・教科が主導する。進学講習体制を充実させ、生徒の進路実現に取り組む。	（１）大学進学全国平均 56.6％、本校１年４月時の進学希望者 80％超の実態の中、生徒の卒業後の自己実現支援に向けた支援プログラムを実施しながら再検討をする。総合的な探究の時間を活用して自主性・自立性を育成するキャリア教育を推進し、社会人・職業人としての自立を通じた自己実現をめざす。 ア ・チャレンジ講習の５クール・１学期間・１年間の計画を進路が作成し、教科が協力して実施。（進路部と教科・学年との連携した進学に向けての講習実施のために進学主坦者がイニシアチブをとる） ・自習会の実施・土曜講習・長期休業中講習の実施など、放課後や土曜日の有効的な利用にも取り組む。（１年次から進学講習を実施）進路・学年・教科の密なる連携。（進学主坦者がイニシアチブをとる） ・自習室の使用計画と運営について再検討。 ・チャレンジ講習の参加者増加、土日の学習会、考査前を含む自習室の開放、勉強合宿の企画や大学見学、大学施設での講習会の企画についても検討する。（進学主担・学年主任・学年進路）	（１）ア チャレンジ講習等の実施頻度（授業期間） １-２年生…英数国等合計年間各[12回]⇒[15回以上] ３年生…英数国理等合計を年間〔50回〕⇒50回以上（長期休業中） １-２年生…英数国理等合計[５回]⇒８回 ３年生…英数国理等合計[25回]⇒25回 ・４年制大学への進学者[47％]⇒55％に ・４年制大学・短大への進学者[53％]⇒60％に ・公募推薦・AO等大学・短大受験合格率[37％]⇒[40％]、一般受験合格率〔30％〕⇒[35％]に高める	（１）データ集計前 ア チャレンジ講習等の実施頻度（授業期間） １-２年生…英数国等合計年間各[12回]⇒各15回＋23回、計[47回]（○） ３年生…英数国理等合計を年間〔50回〕⇒70回以上（○） （長期休業中） １-２年生…英数国理等合計[５回]⇒23回（○） ３年生…英数国理等合計[25回]⇒32回（○） ・４年制大学への進学者[47％]⇒52％（△） ・４年制大学・短大への進学者[53％]⇒58％（△） ・公募推薦・AO等大学・短大受験合格率[37％]⇒[40％]（○）、一般受験合格率[30％]⇒[16％]（△） イ：就職希望者８名 ・１次就職試験決定率[83％]⇒88％（△） ・学校幹旋就職決定率[100％]⇒100％（○） ・インターンシップ人数⇒一人当たり５回ずつ ・応募前職場見学参加人数[全員参加]⇒全員参加（○） ・就職講座等指導実施回数[20回]⇒20回（○） ウ ・医療系専門学校・短大・４大の進路希望実現率95％以上 ・進路未定等[４％]⇒４％（○） ・（教職員）「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている〔72％〕⇒84％（◎）」 エ 外部学力診断テストにおける国数英３教科の３年生時のＣ3以上の人数割合を３年後には70％をめざす。 [54％]⇒60％
	イ 就職希望者に対しては、面接指導等を強化し希望先への内定率100％をめざす。	イ ・インターンシップや応募前職場見学の実施。 ・就職講座・公務員講座・看護医療講座などを企画し、進路の各係が運営実施。	イ：就職希望者６名 ・１次就職試験決定率[83％]⇒100％ ・学校幹旋就職決定率[100％]⇒100％ ・インターンシップ人数⇒一人当たり５回ずつ ・応募前職場見学参加人数[全員参加]⇒全員参加 ・就職講座等指導実施回数[20回]⇒20回	イ：就職希望者６名 ・１次就職試験決定率[83％]⇒88％（△） ・学校幹旋就職決定率[100％]⇒100％（○） ・インターンシップ人数⇒一人当たり５回ずつ ・応募前職場見学参加人数[全員参加]⇒全員参加（○） ・就職講座等指導実施回数[20回]⇒20回（○） ウ ・医療系専門学校・短大・４大の進路希望実現率95％以上 ・進路未定等[４％]⇒４％（○） ・（教職員）「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている〔72％〕⇒84％（◎）」 エ 外部学力診断テストにおける国数英３教科の３年生時のＣ3以上の人数割合を３年後には70％をめざす。 [54％]⇒49％（△） （２） ア保護者「生徒指導の方針には共感できる」[70％]⇒52％（△） 生徒「先生は協力して生徒指導に当たっている」[83％]⇒89％（○） ・薬物乱用防止等講習やSNS等研修の実施状況[各学年２～３回実施]⇒同等（○） 保護者に対する説明、納得を得る生徒対応・指導が必要（論ず指導の徹底）
	ウ 自主性・自立性を育成するキャリア教育を推進し、社会人・職業人としての自立を通じた自己実現をめざし、第１希望進路達成率を向上する。	ウ ・「総合的な探究の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒が働く際のキャリアイメージを持たせ、高校段階での目標設定のイメージづくり、進路意識、積極性、自立心を育む。 ・１年次から進路情報を提供し、進路意識の向上を図る。 ・同窓会との連携を模索し、アントレプレナーシップ教育の導入に向けた検討をすすめる。 ・７月12月の考査後の期間の有効活用。 ・３年間の指導マップ（港マップ）を全教員で共有し活用。合格者登校～卒業までの計画の共有。特に、今後の社会の変化予測を踏まえ、２年生の選択科目決定の前の時期に、進路希望未定生徒へのアプローチの強化。	ウ ・医療系専門学校・短大・４大の進路希望実現率95％以上 ・進路未定等[４％]⇒３％ ・（教職員）「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている〔72％〕⇒77％」 エ 外部学力診断テストにおける国数英３教科の３年生時のＣ3以上の人数割合を３年後には70％をめざす。 [54％]⇒60％	ウ ・医療系専門学校・短大・４大の進路希望実現率95％以上 ・進路未定等[４％]⇒４％（○） ・（教職員）「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている〔72％〕⇒84％（◎）」 エ 外部学力診断テストにおける国数英３教科の３年生時のＣ3以上の人数割合を３年後には70％をめざす。 [54％]⇒49％（△） （２） ア保護者「生徒指導の方針には共感できる」[70％]⇒52％（△） 生徒「先生は協力して生徒指導に当たっている」[83％]⇒89％（○） ・薬物乱用防止等講習やSNS等研修の実施状況[各学年２～３回実施]⇒同等（○） 保護者に対する説明、納得を得る生徒対応・指導が必要（論ず指導の徹底）
	エ W-UP（朝学習）を活用し、特に英語力の向上をめざす。また、英語アプリやその他の教材を活用し資格試験合格もめざす （２）自主・自律の精神を養い、充実した高校生活の実現をめざし、「人間力」を育成する。 ア すべての教育活動において、自立性を育むことを念頭に活動をする	エ ・図書室を利用した授業を展開する。 ・課題学習の中で図書室を利用した課題を展開する。英語学習ツール（BASE in OSAKA）の活用および図書館にある英語多読教材の活用。 ア ・薬物乱用防止教室やSNSなどインターネットの使用についての講習などを企画し、学年通信で注意喚起。 ・情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。 ・生徒が加害者にも被害者にもならないように取組を行う。	エ 外部学力診断テストにおける国数英３教科の３年生時のＣ3以上の人数割合を３年後には70％をめざす。 [54％]⇒60％ （２） ア保護者「生徒指導の方針には共感できる」[70％]⇒75％ 生徒「先生は協力して生徒指導に当たっている」[83％]⇒85％ ・薬物乱用防止等講習やSNS等研修の実施状況[各学年２～３回実施]⇒同等 イ遅刻者数[2857件]⇒2300 欠席者数[5991件]⇒4800 （３） ア ・部活動加入率	エ 外部学力診断テストにおける国数英３教科の３年生時のＣ3以上の人数割合を３年後には70％をめざす。 [54％]⇒49％（△） （２） ア保護者「生徒指導の方針には共感できる」[70％]⇒52％（△） 生徒「先生は協力して生徒指導に当たっている」[83％]⇒89％（○） ・薬物乱用防止等講習やSNS等研修の実施状況[各学年２～３回実施]⇒同等（○） 保護者に対する説明、納得を得る生徒対応・指導が必要（論ず指導の徹底）
	（３）「元気な学校づくり」部活動・特別活動や生徒会活動・自己実現活動へ生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導していく。 ア 様々な機会を通じて部活動の	（２）厳しく鍛え暖かく寄り添う生徒指導を推進し、ルール・マナーの遵守と規範意識の醸成を図る。 ア ・基本的な生活習慣の確立（遅刻欠席への家庭連絡の強化）。 ・担任および学年全体で遅刻・欠席の防止に向け、対話を増やし、生徒個々の状況把握に努め、生徒部では全体の指導方法を再検討し実施する。 （３）部活動・生徒会活動・自己実現活動へ生徒の価値観や関心を向ける。 ア 合理的でかつ効率的・効果的な取組みをおこない生徒にと	（３）部活動・生徒会活動・自己実現活動へ生徒の価値観や関心を向ける。 ア 合理的でかつ効率的・効果的な取組みをおこない生徒にと	（３）部活動・生徒会活動・自己実現活動へ生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導していく。 ア 様々な機会を通じて部活動の

府立港高等学校

	魅力や意義を伝えることに努め、部活動への参加・加入率を高める。合理的でかつ効率的・効果的な取組みをおこなう。 イ 部活動や学校行事で「人を育てる」。生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感できるものにする。 ウ 校内美化に努め、常に快適で過ごしやすい環境づくりを自主的・主体的に進める。 エ 地域・大学・企業との連携の充実をさらに高め、生徒自身の将来像を考えさせるよう、主体性・自立性の意識向上につなげる。また、その中で、「グローバル社会に対応できる人材の育成」、SDGs（持続可能な開発目標）の視点、国際交流等により文化や習慣の違いを尊重する精神も育みながら、問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力の育成、実践的な英語運用能力の育成を図る。	って魅力のある部活動運営に努める。 ・部活動への参加・加入率を高める。 ・クラブ体験期間の工夫、「クラブ加入率を向上させるための手立て」を考える。働きかけ時期（５月中旬の中間テストまで）も工夫する。 ・港カップの実施や、スポーツ講演や講習会の実施。 ・地域連携を強め、地元中学生との連携を強化。 ・部活動連絡会やリーダー講習など連帯感の醸成。 ・部活動で頑張る生徒や成果を紹介し存在感を高める工夫。 ・学校 HP 等における部活動の情報発信機会を増やす。 イ 生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定。 ・学校行事への生徒の取組みに工夫をし、「達成感・成就感」を体感できるものにする。 ウ ・普段の清掃活動や大清掃の統括を保健 G が行い、特に行事前後や学校説明会などの清掃活動時には重点を置く。 ・清掃監督の徹底。 エ ・歴史のある学校としての強みである同窓会の活用。 ・国際交流等により、文化や習慣の違いを尊重する心を育む。 ・コロナ禍で一時中断している国際交流事業の再検討。 ・交流の PR や広報につとめ、参加者をさらに増やす。 ・交流の参加生徒による報告会、写真展示等を全校集会・文化祭に実施し、生徒の意識の向上を図る。 ・大阪観光局や国際交流センターへの申し入れなどで、さらなる校内交流を検討する。 ・生徒の国際交流委員会を活発に機能させる。 ・国際理解教育や異文化理解に務め、多文化共生の心を育む。	[48.8%] ⇒54% ・クラブ体験行事の回数 [6 日] ⇒ 6 日 ・部活動連絡会やリーダー講習の実施数[10 回]⇒10 回 ・港カップ杯イベント、スポーツ講演や合同練習、講習会の実施数[14 回] ⇒15 回 ・学校 HP の各部活動の更新を月 1 回は行う。また、SNS についてもその活動を広げていく イ ・(生徒)「学校に行くのが楽しい」[75%] ⇒79% ・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」[88%] ⇒90% ウ ・(保護者)「清掃活動はきちんと行われていると感じる」[85%] ⇒88% ・(生徒)「清掃活動はきちんと行われている」[84%] ⇒87% ・教員「生徒とともに実施し、担当の区域はきれいに保てている清掃活動はきちんと行われている」[67%] ⇒70% エ ・校内交流会回数 [1 回]⇒ 2 回 ・交流会等参加生徒による報告会[0 回]⇒ 1 回 ・国際理解教育研修回数 [3 回]⇒ 3 回	イ 遅刻者数 [2857 件] ⇒3716 件（△） 欠席者数 [5991 件] ⇒6232 件（△） 生徒の状況から考えると、指標の再設定が必要（3） ア ・部活動加入率 [48.8%] ⇒47%（△） ・クラブ体験行事の回数 [6 日] ⇒ 6 日（○） ・部活動連絡会やリーダー講習の実施数[10 回]⇒ 10 回（○） ・港カップ杯イベント、スポーツ講演や合同練習、講習会の実施数[14 回] ⇒ 14 回（○） ・学校 HP の各部活動の更新を月 1 回は行う。また、SNS についてもその活動を広げていく（△） SNS は各部で行っているが HP 更新回数が少ない（△） 全体を通して情報発信力が極めて低い。取組みに対する理解を得るためにも、もっと SNS を含めた定期的な更新が必要 イ ・(生徒)「学校に行くのが楽しい」[75%] ⇒82%（○） ・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」[88%] ⇒88%（△） ウ ・(保護者)「清掃活動はきちんと行われていると感じる」[85%] ⇒60%（△） ・(生徒)「清掃活動はきちんと行われている」[84%] ⇒84%（△） ・教員「生徒とともに実施し、担当の区域はきれいに保てている清掃活動はきちんと行われている」[67%] ⇒64%（△） 清掃への意識向上が教員・生徒にもっと必要 エ ・校内交流会回数 [1 回]⇒ 1 回（○） ・交流会等参加生徒による報告会[0 回]⇒ 0 回（△） ・国際理解教育研修回数 [3 回]⇒ 3 回（○） 韓国の高校生行け入れや人権研修実施（○）
--	--	---	--	--

府立港高等学校

4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり	（１）学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。 「運営委員会」が企画・検討の中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。 ア 学年が主導ではなく分掌が主導で校務にあたり、学年は学年団として機能し、担任と副担任が協力して、学年・学級指導にあたる。	（１）組織力の強化 ・運営委員会での各分掌間と学年との連携強化。 ・分掌を中心とした学校運営を強化し、学年ごとのばらつきをなくし、同じ３年間の取組みを実行することで３～５年後に検証できる学校運営体制を確立する。 ア 限られた教員定数の中、プロパー・ヘルパー制という考え方や、担任団という考え方を廃止し分掌及び学年団中心の学校運営をさらにすすめる。 ・各業務の点検を行い、校内組織のバランスの再構築。 ・各分掌が校務の取り組み方を考察し少人数での効率的な校務運営に努める。 ・各分掌内での仕事の役割分担の見直し、「担任でもできる、副担任にもできる」という視点での見直し。 ・日常の担任会の情報共有とともに、会議の方法や効率化をすすめる。学年団会議を拡大、担任団から学年団へ考え方を移行する。（13 人程度の集団） ・分掌・学年マネジメント表を有効に使い関係協力部との協力体制を考察し、役割分担を考える。	（１） ・学校教育自己診断（教員）「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」[49%] ⇒54% 「学校の教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」[79%] ⇒82% ア 学年団会議の回数 [12 回] ⇒12 回 ・(教員)「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」[53%] ⇒56% ・「学校の教育活動について、教職員でよく話し合っている」[81%] ⇒84%	（１） ・学校教育自己診断（教員）「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」[49%] ⇒60%（○） 「学校の教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」[79%] ⇒64%（△） ア 学年団会議の回数 [12 回] ⇒12 回 ・(教員)「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」[53%] ⇒43%（△） ・「学校の教育活動について、教職員でよく話し合っている」[81%] ⇒91%（◎）
	（２）「頼りにされる校務力」の育成（新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る）、「学び続ける教職員」（ICT 活用指導力の向上に取り組む教職員）の育成 経験年数の少ない教職員の資質・能力の向上、ミドルリーダーの育成を図る校内研修を充実。中堅・ベテラン教員が若手教員の育成を担当することで自らの力量を高める。（OJT）・・・組織的継続的な人材育成、ミドルリーダー・次代の管理職を系統的に育成、ハラスメントに対する認識の深化・相談体制の構築	（２）「学び続ける教職員」（ICT 活用指導力の向上に取り組む教職員）の育成 ・すべての教員が最新の教育を取り巻く状況の把握に努め、それを基にした教員間での情報交換等、学びの場を作り、先手を打てる準備をすすめる。 ・メンターチームによる初任者や経験年数の少ない教員への研修や支援。 ・経験の少ない教職員への生徒・保護者対応、生徒理解をテーマとした校内研修の設定。 ・教職員の意見交換の場の設定。 ・提案型の学校運営のための、意見提示ができる機会の設定 ・先進校視察や授業交流の実施。 ・ハラスメントのない同僚性の高い職場環境の構築。	（２） ・メンターチーム研修実施回数[5 回] ⇒ 5 回 ・教職員研修の実施回数[4 回] ⇒ 4 回 ・初任者校内研修[20 回] ⇒20 回 ・先進校視察実施回数[3 校]⇒ 3 校 ・港高校を考える会の実施[0 回] ⇒ 2 回 ・教職員研修（人権研修を含む）を 5 回	（２） ・メンターチーム研修実施回数[5 回] ⇒ 5 回 ・教職員研修の実施回数[4 回] ⇒ 6 回（○） ・初任者校内研修[20 回] ⇒20 回（○） ・先進校視察実施回数[3 校]⇒ 2 校（△） ・港高校を考える会の実施[0 回] ⇒ 0 回（△） ・教職員研修（人権研修を含む）を 5 回（○）
	（３）広報活動と地域連携の充実 ア ホームページ等の適時更新などできるだけ効果的な情報発信に努める。学校説明会や中学校での説明会などを工夫し、広報活動を活発にする。	（３） ア ・学校説明会や中学校訪問等の活動の工夫を行い、広報活動をさらに活発にする。特に、生徒とともにできる活動を増やし、生徒の様々な経験につなげていく。 ・SNS をさらに活用するとともに、広報活動内容を充実させ、効果的な情報発信に努める。とくに SNS 更新回数を増やし、閲覧者を増加させる。（教頭・首席により具体的な方策を考察し、実践する） ・中学校への出前授業の実施。 ・年間の戦略計画を立て、中学校へのアプローチ時期を学校説明会・合同説明会とともに考察。（総務部がイニシアチブ） ・広報グッズの作成や管理・予算立て。 ・広報活動を総務部の分掌の仕事としマニュアルを作成。 ・生徒による中学校訪問の企画等新しい企画を考察。	（３） ア ・保護者「HP等を閲覧することがある」[37%] ⇒42% ・中学校への出前授業[5 回]⇒ 5 回 ・(教職員)「広報活動に取り組み、必要な情報は生徒・保護者・地域に向かって発信している」[73%] ⇒75% ・学校教育自己診断アンケートの回収率を高める（保護者）[68%] ⇒72% ・学校教育自己診断アンケートの「学校へ行くのが楽しい」の肯定感の差を是正（教職員・保護者・生徒の差を[75%・82%・88%で 13%] ⇒ 8 %以内に	（３） ア ・保護者「HP等を閲覧することがある」[37%] ⇒22%（△） ・中学校への出前授業[5 回]⇒ 5 回（○） ・(教職員)「広報活動に取り組み、必要な情報は生徒・保護者・地域に向かって発信している」[73%] ⇒78%（○） ・学校教育自己診断アンケートの回収率を高める（保護者）[68%] ⇒70%（○） ・学校教育自己診断アンケートの「学校へ行くのが楽しい」の肯定感の差を是正（教職員・保護者・生徒の差を[88%・82%・75%で 13%] ⇒93%・59%・82%で 34%（△）
	イ 広報活動を様々に展開し、国際交流や図書活動などを通して地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。	イ ・地域清掃活動の実施。 ・老人会などとの地域連携・地域のフェスタへの参加・小中学生との部活動交流や読み聞かせなどの読書交流のような新しい取組みの実施。 ・挨拶運動、校内外美化活動の継続実施、港区役所、波除町会、波除保育園、波除小学校、市岡東中学校（他地元中学校）と連携した企画を実施。 ・一昨年度の学校経営推進費の活動で、国際交流や読書活動を用いて幼小中などの連携を図る。	イ 実施企画数 ・毎朝の挨拶運動および清掃活動 ・地域清掃活動[5 回]⇒ 5 回 ・地域連携活動[0 回]⇒ 3 回	イ 実施企画数 ・毎朝の挨拶運動および清掃活動 ・地域清掃活動[5 回]⇒ほぼ毎日（○） ・地域連携活動[0 回]⇒ 3 回（○）

府立港高等学校

	（４）教職員の負担軽減（業務分担の見直しや適正化、在校等時間の縮減 教職員の健康管理と意識改革） ア 働き方改革をふくめ「全校一斉定時退庁日」の設定、様々なデジタルコンテンツの作成・活用、グループウェア等を活用した「校務運営の効率化」の促進や一人ひとりの意識改革を推進する。	（４）時間外労働縮減に向けた取組みの促進、在校時間等管理及び健康管理を徹底。 ア ・全校一斉定時退庁日、ノー残業デー、ノークラブデーの徹底。 ・校務運営の効率化」の促進。 ・様々なデジタルコンテンツおよびグループウェアの活用による業務の見直しと効率化。 ・部活動時間管理の推進。 ・業務分担の見直しや適正化、在校等時間の縮減、教職員の健康管理と意識改革。 ・労働安全衛生委員会で時間外労働の実態管理。 ・産業医や管理職との面接の実践。	（４） ア 時間外労働時間を５％削減 [R５：80時間以上 のべ30人 100時間以上 のべ16人 総残業時間 18691時間 月平均 1889時間 1人あたり月平均 38.8時間] R６：80時間以上 のべ27人 100時間以上 のべ 8人 総残業時間 19000時間 月平均 1794時間 1人あたり月平均 36時間 ・労働安全衛生委員会 実施回数[12回] ⇒ 12回	（４） ア R６：80時間以上 のべ37人（△） 100時間以上 のべ14人（△） 総残業時間 19171時間（△） 月平均 1743時間（○） 1人あたり月平均36.3時間（△） ・労働安全衛生委員会 実施回数[12回] ⇒12回 月平均はやや減少、教員増があるので、総時間数はやや増。 次年度に向け、さらに意識改革、業務の見直しをすすめていく
--	---	---	--	---